

令和 6 年 4 月 21 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00434

研究課題名（和文）記憶と対峙するWorld Literature：英語圏文学とアジア圏文学の融合

研究課題名（英文）Encounter with Memory in World Literature: Blending of Anglophone and Asian Literatures

研究代表者

臼井 雅美（Usui, Masami）

同志社大学・文学部・教授

研究者番号：00223537

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000 円

研究成果の概要（和文）：2019年からのリサーチの蓄積に加え、2023年にはアフターコロナで海外出張が可能となり、世界文学に関してリサーチと国際学会における口頭発表をイギリスで二度行い、5年間にわたる総括を行った。リサーチはイギリスの大英図書館とオックスフォード大学図書館において21世紀の英語圏文学の作品と参考文献のリサーチを行い、世界文学の文学理論に基づき、歴史、文化、そして文学という多角的視点から現代に生きる越境する作家群に関してまとめて4冊、英語圏においての文化に関して4冊を出版した。さらに、人種とジェンダーの多様性を女性の表現者に焦点を当て、本一冊分の原稿を完成させて、2024年に出版予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在社会で起こっている様々なテロ、戦争、経済不振、そして災害、さらにそれらにより起こっている難民問題と移民問題を、歴史的に遡ってルーツを探り、さらにそれらが現代作家によりどのように描かれているかということ論じて本として出版することにより、研究者だけでなく一般読者の人々へ問題提起をすることができた。それは、世界文学という領域が、身近な現代に生きる作家たちの声を反映していることがあるからである。さらに、英語圏文化に関しても同様に、英語圏文化が西洋帝国主義と植民地主義のなかで構築されて拡張したことにに関して本として出版することにより、研究者だけでなく一般読者にも知識を共有することになった。

研究成果の概要（英文）：In addition to the compiled research that I have been doing since 2019, after covid-19 in 2023, I presented my paper on World Literature twice at the international conference in UK, and also continued my research as a reassessment of my five-year project. I did my research primarily in Oxford Bodleian Libraries and British Library on the 21st Century Anglophone Literature and Culture. Based on the World Literature theory, I published 4 books on contemporary writers beyond borders by analyzing and discussing from multiple perspectives such as history, politics, religion, culture, and literature, and another 4 books on Anglophone Culture. I have also completed a book-length manuscript on women writers and culture presenters by examining from race and gender perspectives and it plan to be published in 2024.

研究分野：F71

キーワード：英語圏文学 アジア圏文学 世界文学 グローバリズム 英語圏文化

1．研究開始当初の背景

9.11 ニューヨーク多発テロ事件を発端としてより宗教および政治上の世界規模の戦争と地球温暖化による地球規模の環境破壊と災害が起ってきている 21 世紀において、越境する文学が構築されつつある中で、世界文学（World Literature）という新たな文学批評論が台頭してきたことを踏まえて、大航海時代と西洋帝国主義と植民地主義から二つの世界大戦を経て過去の記憶と対峙してきた英語圏とアジア圏文学を比較して、分析することが早急に必要であると思われる。これらの計画を立てて、研究を開始した 2019 年当初は、研究の中心をオックスフォード大学とハーバード大学の研究機関に置くことを予定していたが、2018 年 9 月から 2019 年 9 月までの一年間、在外研究でイギリスに滞在したことから、帰国後半年経った 2020 年 1 月頃から 2022 年 3 月頃まで、コロナ禍において日本で研究活動を行わざるを得なかったことから、研究拠点を在外研究以前から何度もリサーチを行ってきたオックスフォード大学と大英図書館、また在外研究期間に新たなリサーチ拠点となったランカスター大学とマンチェスター大学などにおいて蓄積してきた資料に基づいて、執筆を行うことになった。

このコロナ禍においては、国外におけるリサーチだけでなく、国際学会での論文発表もできなかった。研究開始当初の背景に、世界文学のリサーチを広く行うことが不可能となる事態があったが、コロナ禍において、世界中で新たなテロ、戦争、さらにブラック・ライヴス・マターという人種問題が顕著となってきたことにより、それらをテーマに新たな世界文学が構築され始めた変遷期が。予想外の新たな背景となった。さらに、音楽や映像文化などはイギリスにおいては劇場やカウンスルが支援するウェブサイトにおいて公開されているものが多く、図書館や博物館などへの訪問なしで文化的側面にもより広くリサーチを行うことができた。

2．研究の目的

本研究の目的は、地球規模において世界的危機に直面する現代において、国境や人種および民族を越境する文学が生まれて構築されていく過程と、歴史を遡り喪失した過去の語りを再生する過程を、合体することにより、その差異を作家や詩人がどのように埋め込み、語りを再構築していくかを、政治、宗教、文学、音楽、および文化という多重構造地図を文学論として提示することである。現代に新たに誕生してきた越境する文学や文化の担い手が、帰属する社会や習得した言語と異なるルーツを持ちながらも、その分断された世界で多発する葛藤とその葛藤の中で存続する姿勢を描き、さらに独自の語りを構築していくことは、暴力が浄化され歴史的遺産となり沈黙と忘却に埋もれた過去に対する躍動的意志の表れである。

特に英語圏において、西洋帝国主義および植民地時代に生まれた祖霊制度や非合法的な隷属から生まれた人種差別と、そこから生まれた新たな文学と文化は現代社会において最も重要な領域となっている点に注目して、特に現代のアメリカ、イギリス、西インド諸島、アフリカの作家たちに見られる多様性は、彼らの自伝的作品に見られるが、それは単なる個人史や家族史ではなく、より大きな歴史的変動の中で起こった物語を表象している。その根幹となるのが、15～16 世紀には本格的になる大航海時代の幕開けと植民地戦争であり、その究極の原因がキリスト教とイスラム教の対立であり、それがさらにキリスト教のなかでのローマ・カトリック教会とプロテスタントの対立へと連結していき、非イスラム教、非キリスト教世界への暴力による侵略と略奪さらには大虐殺という共通項を持つことになり、そこに政治と宗教の葛藤から創り出された現代の越境する文学と文化のルーツを発見することである。

3. 研究の方法

世界文学の作品と参考文献に関しては、コロナ前の 2019 年までとコロナ後の 2023 年にオックスフォード大学ボドリアン図書館、大英図書館（ロンドン）、ランカスター大学図書館、マンチェスター大学図書館、ナショナル・ポエトリー・ライブラリー（ロンドン）などにおいてリサーチを行った。さらに、次の講演会や朗読会に出席した：Armitage, Simon, “An Evening with Simon Armitage,” Manchester Central Library, Manchester, 29 May 2019; Armitage, Simon with Frank Lock, Gboyage Odubanjo, et al, “Out Spoken,” Purcell Room, Southbank Center, London, 27 Feb. 2020; “Carol Ann Duffy: The Legacy of the Laureateship” Conference, The British Academy, London, 5-6 Sep., 2019; Dharker, Imitiaz, “Mother Tongue, Other Tongue Awards Event,” Manchester Metropolitan University, Manchester, 24 June 2019; Duffy Carol Ann. “Carol Ann Duffy and Friends,” Royal Exchange Theatre, Manchester, 11 March 2019; Duffy, Carol Ann, “Carol Ann Duffy and John Sampton,” The Stand’s New Town Theatre, Fringe: The Edinburgh Festival, Edinburgh, 10 Aug. 2019; Duffy, Ella, Lenni Sanders, and Clare Shaw, “Weekend of Words, Saturday at Victoria Baths: Poetry Panel,” Victoria Baths, Manchester, 8 June 2019; Kay, Jakie, “Stories that Make Scotland,” The New York Times Main Theatre, Edinburgh International Book Festival, Edinburgh, 16 Aug. 2019; Muldoon, Paul, “Open Seminar-Thoughts o Reading ...Emily Dickinson,” County Main Meeting Room 2, Lancaster University, 16 May 2019; Nagra, Daljit, “Dalloway Dat Activity-29Fitzroy Square,” by the Royal Society of Literature, Fitzroy Square, London, 19 June 2019; Okri, Ben, The New York Times Main Theatre, Edinburgh International Book Festival, Edinburgh, 11 Aug. 2019; Sissay, Lemn, “My Name is Why,” Royal Court Theatre, London, 3 Sep. 2019; “Thia Place I Know: New Cumbrian Poetry,” Kendal Mountain Festival, Kendal, 17 Nov. 2018, and Zephaniah, Benjamin, “Benjamin Zephaniah and Revolutionary Minds,” Gorilla, Manchester, 28 May 2019.

イギリス文化および世界文化に関しては、同上の図書館だけでなく、アーミット・ミュージアム・アンド・ライブラリー（アンブルサイド）、ラスキン図書館（ランカスター大学）、ランカスター・マリタイム・ミュージアム、ジョン・レイランズ・ライブラリー、モアカム・インフォメーション・センター、ケンブリッジ大学図書館、ニューナム・コレッジ図書館（ケンブリッジ）、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館貴重図書館（ロンドン）、アボット・ホール・アンド・アート・ギャラリー（ケンダル）、ケズィック・ミュージアム・アンド・アート・ギャラリー（ケズィック）、ラスキン・ミュージアム（コニストン）、ドヴコテッジ・アンド・ザ・ワーズワース・ミュージアム（グラスミア）においてリサーチを行った。

4. 研究成果

5 年間の研究期間において、世界文学と文化に関してのリサーチをオックスフォード大学ボドリアン図書館と大英図書館を中心に行い、イギリス（ケンブリッジ大学、オックスフォード大学、ロンドン大学、オランダ、ポルトガル、アメリカにおいて開催された国際学会で 8 回口頭発表を行い、さらに合計で 12 冊の本を出版した。さらに、ブラック・アンド・ブラウン・ブリティッシュを代表する作家とアジア系作家の作品分析と西インド諸島やアフリカ系アメリカ人作家に関してさらに詳しくリサーチを行い、『カズオ・イシグロに恋して』（2019 年）、『ボーダーを超えることばたち 21 世紀イギリス詩人の群像』（2020 年）、『記憶と対峙する世界文学』（2021 年）を刊行し、さらにイギリスにおけるブラックの人々の文化と文学を分析した『ブラック・ブ

リティッシュ・カルチャー』(2022年)を刊行したが、それらの連続性を構築19世紀から21世紀にかけて台頭したイギリス、アメリカ、西インド諸島のブラックの音楽家、詩人、劇作家、小説家、ノンフィクション作家、児童文学作家などに関してリサーチを行って、女性の表現者に焦点を当てて、本一冊分の原稿(仮題:『ブラックの女たちの物語:アフリカ系ディアスポラの性の政治学』)を完成させて、2024年に出版予定である。

また、コロナ禍において新たなリサーチが不可能となった期間は、在外研究中に始めたあらたなテーマである英語圏文化の多様性を追求した。イギリス湖水地方の文化、文学、および歴史を多角的にまた学際的に探究して、『イギリス湖水地方アンプルサイドの女神たち』(2021年)、『イギリス湖水地方モアカム湾の光と影』(2022年)に次いでシリーズの最後『イギリス湖水地方におけるアーツ・アンド・クラフツ運動』(2023年)と、『ピアトリクス・ポターの謎を解く』(2019年)に次ぎ『イギリス湖水地方 ピーターラビットの野の花めぐり』(2023年)に加え、『イギリス湖水地方 ピーターラビットのガーデンフラワー日記』が2024年5月に出版が予定されている。また、イギリス園芸額における階級、ジェンダー、セクシュアリティ、人種の多様性を歴史的に分析した原稿(仮題:『英国女性ガーデナー物語』)をほぼ完成させて、2024年に刊行予定である。さらに、一般読者を対象に現代イギリスの文化や社会に関して、『赤バラの街ランカスター便り』(2019年)、『不思議の国のロンドン』(2020年)、『ふだん着のオックスフォード』(2021年)という三冊の本を出版した。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1 . 著者名 臼井雅美	4 . 巻 100
2 . 論文標題 "Jeffrey Boayke, Black, Listed: Black British Culture Explored"	5 . 発行年 2023年
3 . 雑誌名 英文学研究	6 . 最初と最後の頁 107 114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 8件）

1 . 発表者名 Masami Usui
2 . 発表標題 Black Women Artists against Colourism
3 . 学会等名 International Conference on Gender Studies（国際学会）
4 . 発表年 2024年

1 . 発表者名 Masami Usui
2 . 発表標題 Kumu Kahua Theatre in a Transnational Era
3 . 学会等名 The IAFOR International Conference on Arts and Humanities in Hawaii（国際学会）
4 . 発表年 2024年

1 . 発表者名 Masami Usui
2 . 発表標題 Black British Women's Voices Matter
3 . 学会等名 The 8th International Conference on Social Science, Humanities and Education（国際学会）
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Masami Usui
2 . 発表標題 "Endless Pilgrimage to Freedom and Place in Moshin Hamid's The Reluctant Fundamentalist and Exit West"
3 . 学会等名 The Pilgrimage and Tourism International Conference 2019 (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Masami Usui
2 . 発表標題 "In Search for a Hybrid Self in Viet Thanh Nguyen's The Sympathizer"
3 . 学会等名 The 11th Engaging with Vietnam Conference 2019 (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Masami Usui
2 . 発表標題 "Remapping Dark Tourism between Macau and Nagasaki in Lost Memories and Stories"
3 . 学会等名 The Second MLA International Symposium (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Masami Usui
2 . 発表標題 "Women in the World of Terror Reconsidered in Jhumpa Lahiri's The Lowland and Han Kang's Human Acts"
3 . 学会等名 Oxford Women's Symposium (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1．発表者名 Masami Usui
2．発表標題 The Autobiographical Narrative of Neglect, Adoption, and Care and Jackie Kay's and Lemn Sissay's Works
3．学会等名 Conference on Gender Narrative (国際学会)
4．発表年 2019年

〔図書〕 計13件

1．著者名 臼井雅美	4．発行年 2023年
2．出版社 春風社	5．総ページ数 156
3．書名 イギリス湖水地方ピーターラビットの野の花めぐり	

1．著者名 臼井雅美	4．発行年 2023年
2．出版社 英宝社	5．総ページ数 207
3．書名 イギリス湖水地方におけるアーツ・アンド・クラフツ運動	

1．著者名 臼井雅美	4．発行年 2022年
2．出版社 英宝社	5．総ページ数 245
3．書名 イギリス湖水地方アンブルサイドの女神たち	

1．著者名 臼井雅美	4．発行年 2022年
2．出版社 英宝社	5．総ページ数 270
3．書名 イギリス湖水地方モアカム湾の光と影	

1．著者名 臼井雅美	4．発行年 2022年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 319
3．書名 ブラック・ブリティッシュ・カルチャー 英国に挑んだ黒人表現者たちの声	

1．著者名 臼井雅美	4．発行年 2021年
2．出版社 PHPエディターズ・グループ	5．総ページ数 318
3．書名 ふだん着のオックスフォード	

1．著者名 臼井雅美	4．発行年 2021年
2．出版社 英宝社	5．総ページ数 245
3．書名 イギリス湖水地方アンブルサイドの女神たち	

1．著者名 臼井雅美	4．発行年 2020年
2．出版社 PHPエディターズグループ	5．総ページ数 287
3．書名 不思議の国のロンドン	

1．著者名 臼井雅美	4．発行年 2020年
2．出版社 PHPエディターズグループ	5．総ページ数 231
3．書名 ボーダーを超えることばたち 21世紀イギリス詩人の群像	

1．著者名 臼井雅美	4．発行年 2021年
2．出版社 英宝社	5．総ページ数 282
3．書名 記憶と対峙する世界文学	

1．著者名 臼井雅美	4．発行年 2019年
2．出版社 英宝社	5．総ページ数 333
3．書名 カズオ・イシグロに恋して	

1．著者名 臼井雅美	4．発行年 2019年
2．出版社 PHPエディターズ・グループ	5．総ページ数 205
3．書名 赤バラの街ランカスター便り	

1．著者名 臼井雅美	4．発行年 2019年
2．出版社 英宝社	5．総ページ数 147
3．書名 ピアトリクス・ポターの謎を解く	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------